

20th.JCD中国支部 デザインデイズ IN広島



作成 JCD中国支部 高尾 淳
2026.2.20 支部例会報告書

①内容・参加者

●日時 : 2026年1月10日(土) 11日(日)
 ●場所 : 旧日本銀行広島支店
 広島県広島市中区袋町5番21号

●参加者 : 両日間の最多を記載

JCD中国支部 正会員 (21名)
 講師 (3名)
 ゲスト審査員 (5名)
 JCD関東支部 正会員 (3名)
 JCD九州支部 正会員 (1名)
 JCD四国支部 正会員 (2名) 合計 35名

全国・支部賛助会員 合計 21名

広島工業大学 (7名)
 近畿大学 (4名)
 安田女子大学 (11名)
 広島大学 (4名)
 呉工業高等専門学校 (3名)
 福山大学 (3名)
 穴吹デザイン専門学校 (2名)
 岡山県立大学 (3名) 合計 37名

一般 合計 27名
 総合計 120名
 (19th80名)

※セミナー (75人)
 ※懇親会参加者 (65人)

20th JCD CHUGOKU DESIGN DAYS
 入場無料 in HIROSHIMA
 2026 1/10-11
 On Saturday & Sunday

【会場】 旧日本銀行広島支店
 広島県広島市中区袋町5番21号

AI
 Architecture

松村 佳久氏
 株式会社カクオ・アーキテクト・オフィス
 代表取締役
 建築家 / 建築ディレクター

松村 英史氏
 AI Division 代表
 AIアーキテクト

基調講演セミナー 11日 14:00-16:00
**デザインの手法の変化
 生成AIとの共存**

松村佳久氏は大学在学中より、世界的建築家・高松伸氏に師事し、国際指名コンペや設計監理業務に従事。1997年カクオ・アーキテクト・オフィスを設立。現在は、同社の28年にわたる設計実績とデザイン哲学を学習データとした独自の人工知能「KAKUO AI」を開発した息子・英史氏と共に、生成AIを活用したデザイン開発や支援業務に取り組んでいる。モデレーターに日本空間デザイナー支援機構(SSOJ)代表として、デザイナーの支援活動に力を入れている永井氏を迎え、AIを強力なデザインパートナーと位置づけ、未来志向かつ創造性に富んだ建築・空間デザインの開発について講演いただく。

Seminar
 受講には事前申込が必要【無料】

モデレーター
永井 資久氏
 総合建築設計事務所
 TED ASSOCIATES
 JCD顧問 / SSOJ代表

Design League
 学生コンペ 10日 11:00 / 14:00 / 11日 10:30

建築デザイン・インテリアを学ぶ学生が、制作した作品をプロに向けてプレゼンテーション。学生間、学生と業界団体の交流促進、デザインの探究と普及や将来のデザインを担う人材育成を目的として開催

JCDゲスト審査員

お問合せ事務局 マーベラスアーク【担当: 西江】 E-mail: marvelous_arch@yahoo.co.jp
 (主催) JCD (一社) 日本高環境デザイン協会 中国支部
 (後援) OIC 岡山山・山形・山梨・山梨県・山梨県建設協会、JCA (一社) 日本高環境設計士会 (協力) SSOJ (一社) 日本空間デザイナー支援機構

20th JCD CHUGOKU in HIROSHIMA DESIGN DAYS

2026 1/10
 On Saturday

11:00 **LIVE** 開会 Design League 1部
 14:00 **LIVE** Design League 2部
 17:00 賛助企業紹介
 17:30 終了

11
 On Sunday

10:30 **LIVE** Design League 3部
 12:00 賛助企業紹介
 16:30 パネル展示終了

13:30 会場・受付
 14:00 **基調講演
 セミナー**
 16:00 **LIVE** 贈賞式
 Design League
 JCD中国支部 空間デザイン賞
 16:30 終了

1階 展示室
 日本空間デザイン賞2025
 JCD中国支部空間デザイン賞

2階 展示室
 日本空間デザイン賞2025
 JCD中国支部空間デザイン賞

3階 展示室
 日本空間デザイン賞2025
 JCD中国支部空間デザイン賞

Design League
 2日間に渡り、建築デザインを学ぶ学生たちのアイデアと情熱の詰まった作品がエントリー公開プレゼンを経て各賞を決定します。

基調講演セミナー @次世代に伝えたい事
「デザインの手法の変化 -生成AIとの共存-」
 講師にカクオ・アーキテクト・オフィス代表 松村佳久氏と、同社28年にわたる設計実績とデザイン哲学を学習データとした独自の人工知能「KAKUO AI」を開発した息子・英史氏、モデレーターにSSOJ代表 永井資久氏を迎え、AIを強力なデザインパートナーと位置づけ、未来志向かつ創造性に富んだ建築・空間デザインの開発についてお話を伺います。

日本空間デザイン賞 2025 パネル展
 空間デザインの価値を未来へ繋ぐために設立された日本最大級のデザインアワード受賞作品を展示。

JCD 中国支部 空間デザイン賞
 「地方都市から空間デザイン」をコンセプトに、2016年よりJCD中国支部主催コンペを開催。2日間の公開審査の後、優秀賞、最優秀賞の贈賞式が行われます。

JCD 中国支部
 高環境デザインの専門的職能を確立し、都市社会のコミュニケーションのあり様と商業活動に関わる環境の質的向上を目的として、1961年に創立。インテリアデザイナー・建築家、空間プロデューサー・都市デザイナーなど、幅広い空間デザイン領域のクリエイターによって構成され、デザインアワード・シンポジウム、教育活動、研究活動、セミナー、機関誌の刊行、出版などの活動により、日本国内のみならず、海外のデザイン界にも大きな影響を与えています。

協賛 **大光電機株式会社 中四国支店**、株式会社アダル、株式会社カイイ、株式会社PCM建創、株式会社来田、株式会社KAMIYA (旧 株式会社フジノ) 高松株式会社、株式会社デザイン・シー、株式会社ミラックツ (旧 株式会社フジノ) (一社) ケミュー株式会社、株式会社アスト、株式会社みうら、大和ツキ産業株式会社、パナソニック株式会社エレクトロニックワークス社エンジニアリングセンター中四国EC

②1DAY：開会挨拶・ゲスト/他支部/中国支部正会員紹介・デザインリーグ開幕

2025/1/10（土）

●応募数：81作品（19th/42作品）

●一次通過：32作品（会場プレゼン数）

●参加校：広島工業大学・近畿大学・安田女子大学
広島大学・呉工業高等専門学校・福山大学
穴吹デザイン専門学校・岡山県立大学 全8校

●スケジュール

10：00～会場準備

11：00～開会挨拶（西原実行委員長）

ゲスト・他支部・中国支部正会員紹介（藤坂支部長）

11：20～学生デザインリーグ 1部 8作品※1人/3分質疑3分/計6分

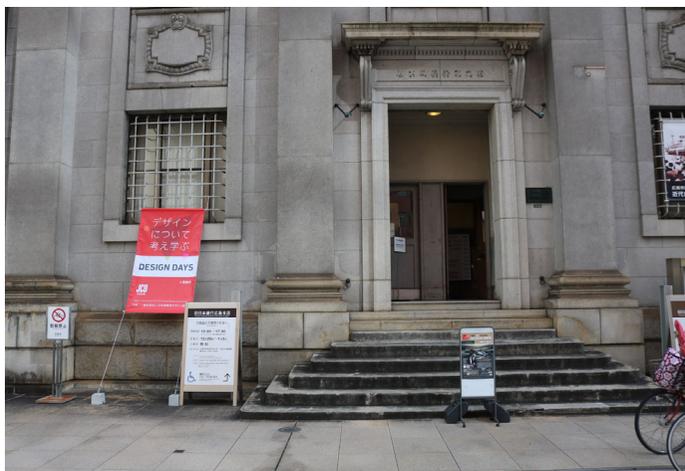
12：30～昼休憩

14：00～学生デザインリーグ 2部 8作品

17：20～賛助会員紹介

17：40～集合写真

18：30～合同懇親会（正会員・賛助会員・学生）collect with cafe



③デザインリーグの様子



④会場内同時展示

JCD紹介パネル・デザインデイズパネル・日本空間デザイン賞パネル・中国支部正会員紹介パネル・Soda活動パネル・野田大策君作品紹介パネルを展示



⑤ 初日合同懇親会



懇親会：collect with café 二次会：おじさんスナックバー3101にて

⑥2DAY:デザインリーグ・基調講演セミナー・贈賞式

2025/1/11 (日)

●スケジュール

- 9:30 ~ 会場準備
- 10:30 ~ 学生デザインリーグ 3部 7作品※1人/3分質疑3分/計6分
- 11:20 ~ 賛助会員紹介タイム
- 12:00 ~ 審査集計・協議
- 12:00 ~ 昼休憩
- 14:00 ~ JCD基調講演セミナー (株式会社 D&C 高橋 恵氏)
- 15:30 ~ 質疑応答
- 16:00 ~ 贈賞式 (デザインリーグ・支部空間デザイン賞)
集合写真
閉会挨拶 (藤坂中国支部支部長)
- 16:30 ~ 片付け・解散

●基調講演セミナー

- 講師 : 株式会社 カクオ・アーキテクト 代表取締役 松村 桂久 様
AI Division 代表 松村 英史 様
- モデレーター: 株式会社 テッドアソシエイツ 代表取締役 永井 資久 様



⑦デザインリーグ_贈賞式 (審査員特別賞)



●笠原 英里子 賞
内海 大輔 近畿大学・3年・工学部・建築学科
「音の響環」



●村上 敦 賞
坂本 碧海 安田女子大学・3年・家政学部・生活デザイン学科
「線で拓く農地、線にひらく市」



●深町 俊彦 賞
岡村 颯真 広島大学・3年・工学部・第四類建築プログラム
「まなびみち」



●鳥居 佳則 賞
一木 唯人 福山大学・3年・工学部・建築学科
「白を、纏う。～にじみ、色が育つ場所。～」



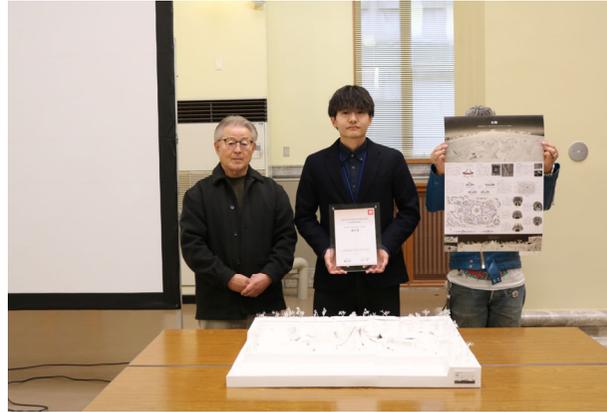
●木村 嘉秀 賞
砂後 飛向 広島大学・3年・工学部・第四類建築プログラム
「大きな樹冠に包まれて～あわいで学ぶ子供達」

⑧デザインリーグ_贈賞式 (最優秀賞・優秀賞)



●施設部門 最優秀賞

三澤 蒼介 岡山県立大学・3年・デザイン学部・建築学科
「共存する拠り所」



●施設部門 優秀賞

光旗 海人 広島大学・3年・工学部・第四類建築プログラム
「線で拓く農地、線にひらく市」



●施設部門 優秀賞

可部 優輝 安田女子大学・3年・家政学部・生活デザイン学科
「日常の幕が上がる～園児の世界に立ち上がるプレヒトの場～」



●施設部門 優秀賞

木本 修梧 近畿大学・3年・工学部・建築学科
「時間設計学徳論－巡り歩き、学びと交流が滲む学校－」



●住宅部門 最優秀賞

藤家 颯人 広島工業大学・3年・環境学部・建築デザイン学科
「視線の抜けた先」



●住宅部門 優秀賞

平野 希依 岡山県立大学・3年・デザイン学部・建築学科
「馴染む、個性」

⑨中国支部空間デザイン賞_贈賞式



●最優秀賞 岩竹 俊範 ure 「KItoNOKO」



●優秀賞 谷川 智明 株式会社 SWICH 「PLACE」



●優秀賞 岩竹 俊範 ure 「阿品の家」

⑩好評コメント・閉会挨拶



好評：関東支部 小田秀樹様



閉会挨拶：中国支部 支部長 藤坂浩匡



デザインデイズを終えてみて

⑪ゲスト審査員の皆様からのコメント

●笠原 英里子 氏（関東支部・デザイン賞委員長）

20回目を超える「DESIGN DAYS in HIROSHIMA」にて、Design League学生コンペの審査員を務めさせていただきました。年々レベルを高めている学生の皆さんのプレゼンテーションには今年も大きな驚きがありました。これまでの想像を超える発想力に加え、今年は現実の課題に踏み込んだ解決提案が随所に見られ、より一層、説得力のある内容になっていたと思います。大学生・専門学生のデザインコンペが長く継続されてきたことで、学校間の健全な競争意識も育まれ、その中でそれぞれが自らの強みや課題を明確にしながら、着実にレベルアップしているのだと思います。このようにデザイン業界全体のレベルアップに貢献されている中国支部長をはじめ、支部の皆さまのご尽力に、心から敬意を表します。今年も意義深い場に関らせていただいたことに、深く感謝申し上げます。

●村上 敦 氏（関東支部・交流委員長）

今回、初めて二日間を通して審査員として参加しました。二次審査に進んだ学生の作品には、事前に目を通していましたが、ほとんどの作品がそこからさらにブラッシュアップされており、学生たちの緊張した声の奥にある「気迫」も十分に伝わってくるプレゼンテーションばかりでした。現実社会においてデザインとは、法的・社会的・経済的など、さまざまな課題の解決を内包するものだと思います。現段階において、彼ら・彼女らの作品がすべてを解決できているわけではありませんが、間違いなく強い思いが込められたデザインであったと感じました。学生一人ひとり、そして作品そのものから発せられる熱量に魅力されて二日間となりました。また、その環境をおそらくそれ以上の熱量で準備・運営された中国支部の皆さまにも、心より感謝いたします。

●鳥居 佳則 氏（中部支部・支部長）

20回目を迎える「DESIGN DAYS」は、原爆から耐え抜いた石造りの建築の中で行われた。その歴史を肌で感じながら学生たちのプレゼンは、粛々と始まっていった。その姿は何かいつもと違う空気感を醸し出していた。それは広島周辺に住まう人々のあまり表には出さない秘めた心情を垣間見た気がする。参加して毎回強く感じることは、学生たちのスキルの高さと、このアワードに自分の将来を掛けている姿勢に感銘した次第である。そして、何より貰い涙まで誘ってしまう感情豊かな中国支部の皆さまと、同じ時空で過ごせたことに心より感謝いたしております。本当にありがとうございました。

●木村 嘉秀 氏（北陸支部・支部長）

JCD中国支部デザインデイズの盛況おめでとうございます。毎回素晴らしい会を運営されている中国支部の皆さまには、本当に頭が下がります。お疲れ様でした。今年で三回目の審査員をさせて頂きました。年を追うごとに作品やプレゼンのレベルが上がってきています。それは審査員の質問にも現れていて、私たちの質問のレベルも合わせて高度になってきています。去年までは「この構造は？」や「この部屋は何？」の様な基本的な質問が多かったのですが、今年はコンセプトとの親和性や導線と視線の関係性など、デザイナーとして高等なレベルの質問が多かったです。かなり深い内容のやり取りを学生さんとデザイナー審査員で交わす姿は他では観られません。また、ここで受賞するために各学校がしっかりと対策をしてくれていることも驚きました。コンセプト重視の安田女子大学さんが、今年は構造や実現性も考慮して作品を作って来ました。建築専門の先生をお招きしたとの事。ほかの学校の建築学科に勝てる対策をしたそうです。デザインリーグで勝つ作品を作るという事は、就活や社会に出てから戦っていく力を身に着ける事。本当に良い取り組みです。このデザインリーグが学生さんの未来に繋がっている事を実感しました。また、学校同士のライバル関係も素敵でした。懇親会の時のバチバチの激の飛ばし合い。正にデザインリーグ！。学校の威信をかけた戦いにまで昇進しています。一次審査の作品数の多さにも驚かされます。決勝に残るのも大変なコンクールになっていますね。学生さんのこのコンクールに対する熱量を肌で感じ、私も毎年元気を、もらって帰ります。また来年も楽しみにしています。今年、参加した学生さん皆さん良く頑張っていました。このイベントに関して頂いた皆さんに、心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

●深町 俊彦 氏（九州支部・支部長）

デザインデイズ、大変お世話になりました。ありがとうございます。九州支部からデザインデイズに参加させて頂きました。一昨年の参加から今回、二回目の参加になります。先ず、JCD中国支部の皆さんが、正会員・賛助会員一丸となり開催への取り組み大変感動しています。そして、大変お世話になりました。また、20年続く中でこのアワードがエントリーされている学生の目標になっている事が素晴らしい取り組みなのだ改めて感じました。それと前回二年前の参加の時より、このアワードを通してより進化した課題の取り組みがある学校にも驚いています。中国支部の取り組みで、JCDがデザイン業界を目指す教育機関、学生の皆さんに刺激を与え、進化に繋がるアワードになっている事が本当に素晴らしい事業だと思います。参加させて頂き、大変ありがとうございました。

⑫他支部から参加の皆様からのコメント

●小田 英樹 氏（関東支部・支部総括部・部長）

JCD中国支部デザインデイズは、単なる発表・審査の場に留まらず、学生・実務者・審査員が同じ空間で思考を共有し、建築・デザインの本質について考える非常に貴重な機会である。20年にわたり、この場を継続してきたこと自体が、中国支部の大きな価値であり、次世代へと確実に受け継がれていると感じた。今後も、学生にとって「挑戦したい」「戻ってきたい」と思える場として、さらに深化していくことを期待したい。

⑬中国支部 支部長コメント

●藤坂 浩匡（中国支部・支部長）

第20回という大きな節目となる会が大盛況で終える事が出来てとても嬉しく思います。20年目を迎えた事は諸先輩の方々の努力があつての事と大きく感じました。

学生コンペについては、応募が81作品と過去最高の数の応募を頂きました。これはデザインデイズの認知度が上がっていると感じます。一次審査を通過した32作品のプレゼンは昨年よりレベルの高い内容となったと思います。質問に対する応答が実に堂々として、考えに考えられた作品という事に気づかされます。次世代を担う優秀な学生たちがこんなに沢山いる事、とても嬉しく思います。ただ、音響の関係やネット環境の不具合が起こり平等なプレゼンにならなかった事、とても申し訳なく思います。次回から改善に努めたいともいます。

デザインデイズの学生リーグは単に優秀な作品をただ選ぶ事業でなく、多くの学生や大人たちの交流でお互いが刺激を受け成長する事業として運営しています。

デザインデイズで出会った学生同士の交流も活発になり、ライバル関係がこんなにも熱く燃え上がっている事を知り、いい効果が出てきてると嬉しく思いました。

是非、後輩たちに繋いで頂きたいと思います。我々運営側もさらなる向上を図り準備していきます。

中国支部空間デザイン賞では、今回から賞金10万円を設けました。他支部の方々に審査をして頂く事でより公平に審査がなされていると思います。

最優秀はメンバーでない方が受賞されました。これはとても悔しい事ではありますが、JCDブランドの発信となり良い現象と言えます。これをきっかけに会員増強に繋がればよいと思います。

基調講演では松村佳久男様、英史様とJCD顧問の永井資久様にお越しいただき「デザインの手法の変化～生成AIとの共存」というテーマで貴重なお話を頂きました。なかなか手を付けづらかった【AI】について、改めて考え・取り組むべきと思える講演に出会えました。今、やらなければどんどん時代に取り残される危機感とうまく使わないといけない緊張感を頂きました。

本当にありがとうございました。

そして、昨年逝去した野田大策君の作品展を開催しました。彼の業績を称え、そして沢山のの人に知ってもらいたい思いでの開催です。来年は岡山開催なのでチラシにも載せてJCD・建築業界以外の人にも見てもらいたいと思います。何よりご家族に見て頂きたいと思います。

最後に、準備や当日の運営に協力して頂いた中国支部のメンバーに心から感謝します。会を重ねる事に中国支部が一つの家族のようになっていくのを感じます。とてもありがたく、うれしく思います。

来年度もメンバーにはいろいろなお負担をお掛けしますが、次へ次へと繋いでいける事業に成長させていきたいと思いますので、これからもよろしくお願ひします。

⑭ 総括

● 西原 勝（中国支部・デザインデイズ実行委員長）

JCD中国デザインデイズ広島、おかげさまで第20回目の開催を無事に終える事ができ、大変うれしく思います。

運営もスムーズに進み、他支部から好評を得た事と思います。中国支部全員の結束があったからこそその成果と思います。会場も旧日銀の格式ある空間でのイベントは20回目にはふさわし品格を備えた内容になったと思います。福山からスタートして、場所、名前、広島、岡山交互開催等、内容を改善しながら繋げた結果、今の様な形になりました。

20年は長いです。一回目の学生さんは、もう40歳。社会に出て、この業界の中堅として活躍していると思います。毎回参加してくれる学生の無限の可能性を引き出す事を目的に、デザインリーグもさらに権威あるアワードになる様に進めていきましょう。

これからさらに、30年、40年を目指して、社会に発信できるようJCD中国を盛り上げていきましょう。

追記

多くの助言をいただき、各大学のネットワークをまとめていただいた、穴吹学園の松尾先生には大変感謝をしております。長い間、ありがとうございました。

各支部が、デザインリーグをスタートさせ、何年か後に足並みが揃ったら、AIを駆使した映像で、受賞者を対象に全国大会が出来れば素晴らしいと思います。

⑮参加学生からのアンケート回答

●一次審査

- 1.一次審査の評価結果（審査員からのコメント）をいただき、今後に生かすことが出来そう

●二次審査

- 1.指定時間3分を超えても発表が続く方がいたので、不公平を感じた。オーバータイム減点なども評価のひとつにあっても良いのでは？
- 2.もう少し、発表の際の環境が整えば、全員が自信を持って楽しく想いを伝えられる。他の人も相手の意図を深く、読み解く事が出来るのではないか？
- 3.マイクの音割れを改善
- 4.プレゼンタイムをもう1分、長くしてほしい。
- 5.スライド操作を発表者自身が行えたらうれしいです。
- 6.反響音が大きく、遠い席からだと声が聞きづらかった。
- 7.ピンマイクの使い方が、慣れていないのでむずかしかった。
- 8.初めての参加でしたが、とてもスムーズでわかりやすかった。

●セミナー

- 1.質疑回答の時間が、もう少しほしかった。
- 2.非常に学びのある内容だった。
- 3.AIの建築での活用を具体的に知れてよかった。

●贈賞式

- 1.とてもよかった。
- 2.新たに設けられた、審査員特別賞もあり、コメントもいただけたのでとても身になるものだと感じた。

●その他

- 1.懇親会：各テーブルに学生は最低2人は、配置してほしかった。（席替えの後に学生一人になってしまったので）
- 2.懇親会：会場が狭く、思うように動けなかった。
- 3.懇親会：学生だけの懇親会などがあっても面白いかな？と思った。
- 4.搬入：可能であれば、模型搬入を学校別にしてもらえたらうれしいです。
- 5.全体：他の学校の学生同士が交流できるような機会が、デザインリーグ・懇親会のみならず、たくさん増えたらうれしいです。
- 6.全体：楽しかったです。良い経験になりました。
- 7.全体：非常に楽しい思い出となりました。ありがとうございました。
- 8.全体：懇親会で、各学校の想いや叫びを聞くことができ、とてもおもしろかったですし、互いに切磋琢磨し合う関係性が、あの場で生まれたのかなと思います。
ありがとうございました。

●来年のデザインデイズへの参加・JCD例会（活動）などへの参加

来年のデザインデイズについては、参加参加したいが過半数

JCD活動については、参加したいと考え中が半々